

# 音楽科 学習指導案

授業者： 真壁 宗太郎（神奈川県立厚木高等学校）

1 題材名 弦楽器の音色を生かして四重奏を楽しもう！

2 対象 音楽Ⅰ 4校時（1年A組）、5校時（1年D組）各40名

## 3 題材設定の理由

今の社会や生活の中に存在する音や音楽を考えたとき、弦楽器は耳にする機会が多い楽器のひとつである。しかし、それらに直接触れられる場は限られているため、身近に感じられない生徒は多い。本題材によってその壁を取り払えたらと考えた。

弦楽器を演奏するには相当な訓練が必要だが、本題材では表現意図や創意工夫に基づいた技能の習得を目指し、その技能は何のために活用できるのか、生徒が必要を感じ取り、実感を伴いながら主体的に学習していく過程を重視する。そのため、専門家による指導は一定の手順や段階を追って形式的に身に付けていくものではなく、生徒が感覚的に捉えている「よい音」「よい表現」を論理的に理解する場として活用し、新たな知識の習得へと導いていきたい。また、生徒の内発的な表現意図を促すため、試行錯誤の過程においてブレイン・ストーミングの手法を取り入れ、よい音が出せたと感じたときにその技能について協働的かつ論理的に考察する活動や、表現の学習を充実させるための聴く活動など、今までと異なる視点で音楽を捉えられるようにしたい。

本題材は、ひとつのグループ内で、奏者の役割が一人一人異なるため、お互いに関心をもって取り組まざるを得ない。弦楽四重奏を演奏したり鑑賞したりする活動を通じて、音や音楽と深く関わる資質・能力や生涯にわたって音楽を愛好する心情を育むとともに、社会における自己の存在価値や役割を認識しながら深く学び続ける態度や、他者との関係調整能力の基盤となる力の育成を目指し、本題材を設定した。

## 4 学習指導要領の内容

### ① A 表現 (2) 器楽

イ：楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。

ウ：様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。

エ：音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること。

### ② B 鑑賞

ア：声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。

イ：音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。

## 5 題材の評価規準

a. 音楽への関心・意欲・態度	b. 音楽表現の創意工夫	c. 音楽表現の技能	d. 鑑賞の能力
① 弦楽器固有の音色、奏法、表現形態（四重奏）などに関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	弦楽器固有の音色、奏法、表現形態（四重奏）などを知覚・感受して、その特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	弦楽器固有の音色、奏法、表現形態（四重奏）などの特徴を生かした演奏をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。	弦楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取り、音楽に対する理解を深めよさや美しさを創造的に味わって聴いている。
② 弦楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりに関心を持ち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。			

6 計画(全 15 時間)

時	◇ねらい・学習活動 ◆評価
1 5 4	<p>◇楽器や演奏形態の基本的な知識を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弦楽器や弦楽四重奏の歴史、楽器の構造、演奏技術の知識を学ぶ。</li> </ul> <p>◇3種の弦楽器の音色や固有性、弦楽四重奏の表現の多様性について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一の無伴奏曲をヴァイオリン、ヴィオラ、チェロによる演奏で比較しながら鑑賞する。</li> <li>・曲想の異なる弦楽四重奏曲を比較しながら鑑賞する。</li> </ul> <p>◇課題曲の全体像を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドヴォルザーク作曲 交響曲第9番「新世界より」第2楽章を鑑賞する。</li> </ul> <p>◇課題曲の旋律やリズム等を理解し、感覚を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ト音、ハ音、ヘ音記号による記譜の読み方を学び、課題曲の各声部を歌う。(ソルフェージュ)</li> </ul> <p><b>【指導に生かす評価 a. ①②ワークシート・観察】</b></p>
5 7	<p>◇楽器の基本的な扱い方を理解し、奏法や音色に関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開放弦のみによる練習曲等を活用した楽器体験を行い、担当楽器を決定する。</li> <li>・実際に演奏する中で奏法と音色の関係を体感する。</li> </ul> <p>◇各楽器専門の講師から奏法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音色と身体の使い方の関係性(基本的奏法)について実践を通じて学習し、考察をワークシートに記述する。</li> <li>・講師の演奏を参考にしながら課題曲を演奏する。</li> </ul> <p><b>【指導に生かす評価 a. ①②ワークシート・観察】</b></p>
8 10	<p>◇ユニゾンの美しい音色による演奏の実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師によるレッスンを振り返りながら、各楽器のソロ曲や弦楽四重奏曲を鑑賞し、セッション練習等の表現活動に生かす。</li> <li>・美しい音色を奏でるために必要な技能についてブレイン・ストーミングでアイデアを出し合い、楽器ごとの演奏動画を活用しながら、実践と検証を繰り返す。</li> <li>・上記の過程や成果をワークシートに記録する。</li> </ul> <p><b>【◆ b. ワークシート】</b></p>
11. 15. <b>本時</b>	<p>◇意図した表現による演奏の実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弦楽四重奏を結成し、自分たちが課題曲の内容や歴史的な背景等を学習し、演奏に対するイメージを膨らませる。</li> <li>・意図した表現に必要な技能についてブレイン・ストーミングでアイデアを出し合い、講師による演奏動画を活用しながら、実践と検証を繰り返す。</li> <li>・上記の過程や成果をワークシートに記録する。</li> <li>・演奏会の本番を想定したりハーサルを行う。</li> </ul> <p><b>【◆ b. ワークシート】</b></p>
16.	<p>◇これまでの取組を生かし、演奏を通して弦楽四重奏を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージマナーを身につけ、演奏を発表する。</li> </ul> <p>◇本題材を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入する。</li> </ul> <p>◇演奏経験を生かして鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器特有の奏法や音色の特徴に留意しながら2種類の演奏について批評する。</li> </ul> <p><b>【◆ a①②. b. d. [ワークシート]、c. [演奏]】</b></p>

7. 本時の展開

4校時 1年A組 (13時間目)

指導内容	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価
1. 本時の流れの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れを確認する。</li> <li>・楽器の準備。</li> <li>・グループに分かれる。</li> </ul>	◇意識すべきことを明確に伝える。
2. セクション ペア練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セクションの技術的な問題点についてペアで話し合い、効果的な解決策について考え、実践する。</li> </ul>	各グループを巡回して指導する。
3. ブレイン・ストーミング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な表現をするために必要なことについてアイデアを出し合い、本時の目標を設定する。</li> </ul>	◇断定的な助言に終始せず、創意工夫や試行錯誤の余地を残し、生徒が自ら解決策を導き出せるよう留意する。
4. 弦楽四重奏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を意識しながら演奏に取り組む。</li> <li>・動画の視聴や撮影、お互いに演奏を聴き合うなどしながら自分たちの演奏を客観的に確認し、完成度を高めていく。</li> </ul>	◇ブレイン・ストーミングに挙げられた有益なアイデアを具体的に指摘し、さらに発展的な取り組みに広げていけるよう促す。
5. 学習のまとめ 次時に向けての確認 ※「考察」を事前に記入しておくよう指示。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付け</li> <li>・ワークシートに本時の学習の振り返りを書き、次時の課題を確認する。</li> </ul>	◇何のために何を実践したか、グループ内で振り返り、話し合いながら記入するよう促す。  ◆評価規準 b (ワークシート)

5校時 1年D組 (14時間目)

指導内容	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価
1. 本時の流れの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れを確認する。</li> <li>・楽器の準備。</li> <li>・グループに分かれる。</li> </ul>	◇意識すべきことを明確に伝える。
2. 課題曲の考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に調べてきた課題曲に対する考察について話し合い、情報を共有することでイメージを明確化する。</li> </ul>	グループを巡回して指導する。
3. ブレイン・ストーミング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な表現をするために必要なことについてアイデアを出し合い、本時の目標を設定する。</li> </ul>	◇断定的な助言に終始せず、創意工夫や試行錯誤の余地を残し、生徒が自ら解決策を導き出せるよう留意する。
4. 弦楽四重奏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を意識しながら演奏に取り組む。</li> <li>・動画の視聴や撮影、お互いに演奏を聴き合うなどしながら自分たちの演奏を客観的に確認し、完成度を高めていく。</li> </ul>	◇ブレイン・ストーミングに挙げられた有益なアイデアを具体的に指摘し、さらに発展的な取り組みに広げていけるよう促す。
5. 学習のまとめ 次時に向けての確認 ※リハーサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付け</li> <li>・ワークシートに本時の学習の振り返りを書き、次時の課題を確認する。</li> </ul>	◇何のために何を実践したか、グループ内で振り返り、話し合いながら記入するよう促す。  ◆評価規準 b (ワークシート)